

情報提供

2) 流域対策の進捗状況について

平成30年5月17日
大和川流域総合治対策協議会

1. 流域対策の取組状況

(1)大和川流域における流域対策の進捗状況 奈良県と市町村の流域対策の目標量(最小必要量)

- ◆昭和57年の大和川大水害を機に、大和川流域を洪水被害から守るため、県と市町村で流出抑制に取り組むことに合意
- ◆流域全体で県と市町村あわせて、約180万m³の貯留対策に取り組むことになっている。

奈良県と市町村の流域対策の最小必要量					
機 関 名		雨水貯留浸透 施設対策量 (m ³)	ため池治水 利用対策量 (m ³)	機 関 名	
奈良市	14,610	310,500	田原本町	2,440	29,700
大和高田市	3,790	18,300	高取町	1,080	18,900
大和郡山市	5,410	71,700	明日香村	540	15,900
天理市	3,520	65,700	新庄町	1,080	22,500
橿原市	6,770	40,200	当麻町	810	17,500
桜井市	5,140	30,300	香芝町	2,710	55,300
御所市	4,060	48,900	上牧町	1,350	21,600
生駒市	5,410	62,700	王寺町	1,350	21,600
平群町	1,350	20,700	広陵町	1,900	32,400
三郷町	1,080	25,800	河合町	1,350	19,500
斑鳩町	1,630	29,700	大淀町	—	1,500
安堵町	540	9,400	小計	69,000	1,000,000
川西市	810	6,700	奈良県	50,000	700,000
三宅町	270	3,000	合計	119,000	1,700,000

→ 合計181.9万m³

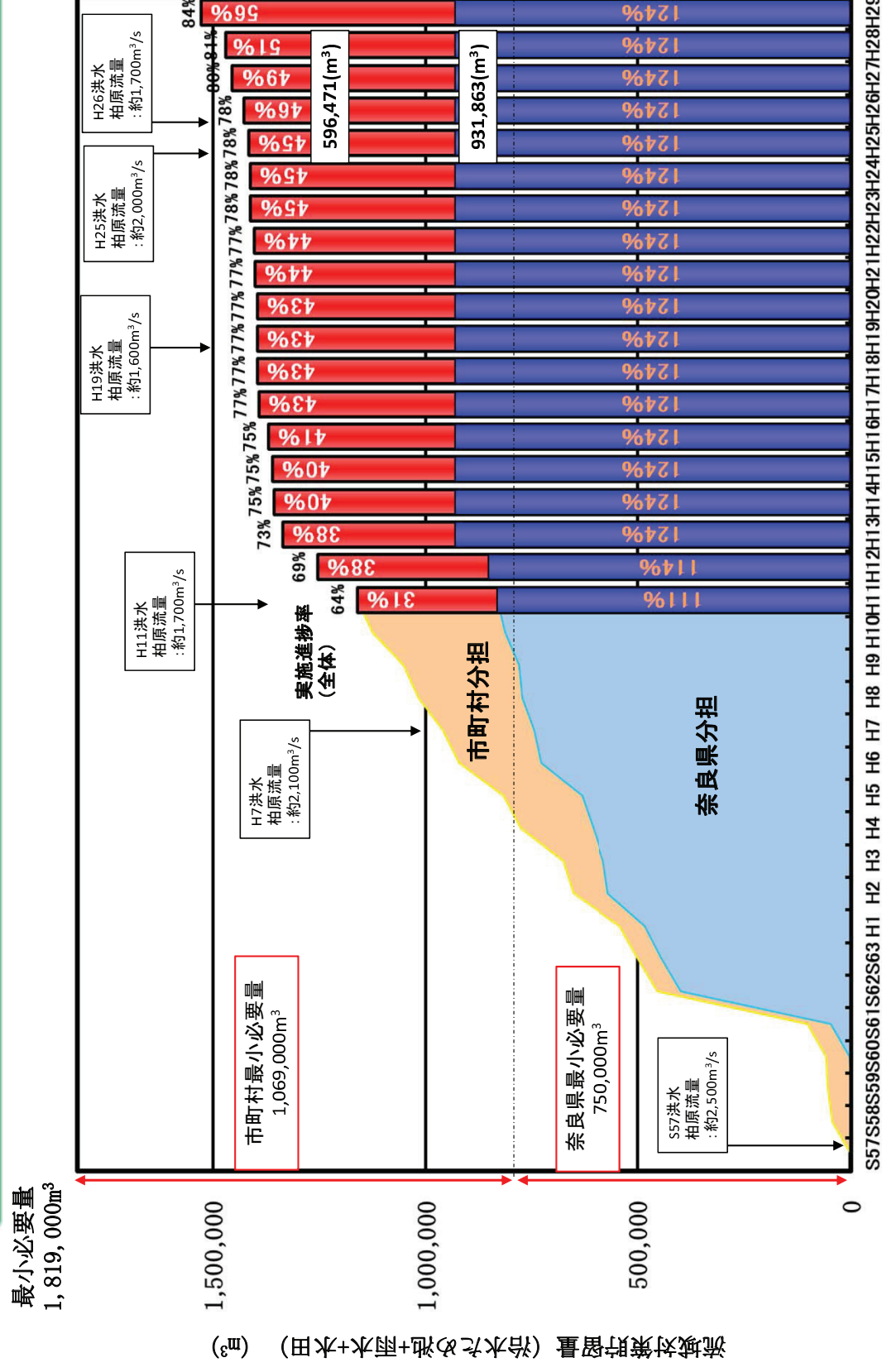
附則 1 今後早急に検討するものについては、成案が出来次第、実施要領の変更により、具体的内容を組み込むものとする。

1. 流域対策の取組状況

(1)大和川流域における流域対策の進捗状況

◆H30.3現在で、計画目標量の84%の達成状況となっており、県では124%の達成状況となっているものの、市町村では56%と低くなっている（水田貯留による対策量を含む）。

流域対策(ため池治水利用+雨水貯留浸透施設+水田貯留)の進捗状況



1. 流域対策の取組状況

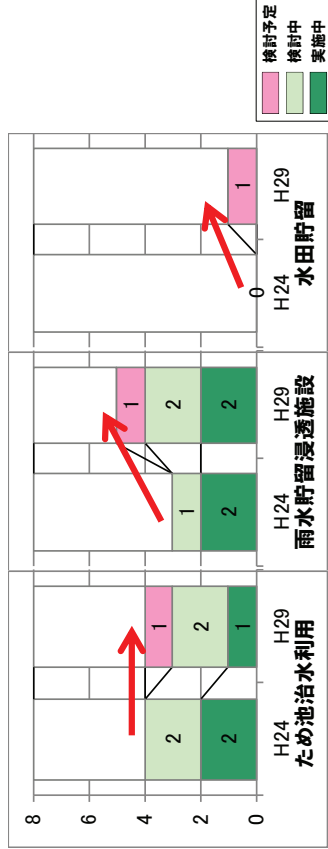
(2)上下流市町村の流域対策の取組状況(圏域別)

- ◆流域対策に取り組む市町村は増加しているものの、全体として進捗率は低迷している
- ◆浸水被害が発生している上流側の市町村で流域対策の進捗が遅れる傾向があり、上下流市町村で進捗率がばらついている

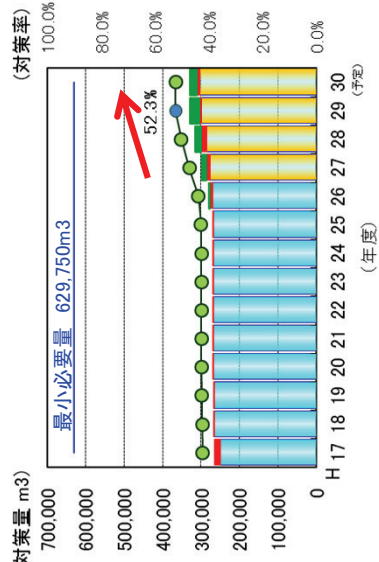
①生駒いかるが圏域・②平城圏域

- ◆大和川沿川や佐保川の中下流域で内水被害が発生しており、上流域での流出抑制が必要。
- ◆ため池治水利用では、生駒市が対策に取り組んでいるほか、奈良市、斑鳩町が検討中。
- ◆雨水貯留浸透施設では、生駒市、三郷町が対策に取り組んでいるほか、大和郡山市、斑鳩町が検討中。
- ◆水田貯留では、大和郡山市が検討を予定している。

【流域対策に取り組む市町村数の変化】全8市町(うち、目標達成は1町)



【流域対策の推移】



【流域対策の進捗状況】

市町村名	最小必要量 (m3)	①ため池+雨水貯留 (H30.3)		②ため池+雨水貯留+水田 雨水貯留+水田貯留 (H30.3)		取組状況 (H30.3現在)	
		対策済量 (m3)	対策率 (%)	対策済量 (m3)	対策率 (%)	ため池 治水利用	水田貯留 浸透施設
奈良市	325,110	104,833	32.2	104,833	32.2	検討中	予定なし
大和郡山市	77,110	55,525	72.0	74,586	96.7	検討予定	検討予定
天理市	69,220	41,952	60.6	41,952	60.6	予定なし	検討予定
生駒市	68,110	27,590	40.5	27,590	40.5	実施中	予定なし
平群町	22,050	4,635	21.0	4,635	21.0	検討予定	検討予定
三郷町	26,880	45,466	169.1	45,466	169.1	予定なし	実施中
斑鳩町	31,330	21,689	69.2	27,689	88.4	検討中	検討中
安堵町	9,940	2,575	25.9	2,575	25.9	予定なし	予定なし
圏域合計	629,750	304,265	48.3	329,326	52.3		

凡例

- 対策率:0%以上25%未満
- 対策率:25%以上50%未満
- 対策率:50%以上100%未満
- 対策率:100%以上

- 実施中
 - 検討中
 - 検討予定
 - 予定なし
- 工事中または設計中(関係者と概ね合意済み)
- 具体的な候補地が決まり、関係者と調整中または近々、調整を行う予定のもの
- 具体的な候補地は決まっていないが、今後、検討を行っていく予定のもの
- 当面、検討の予定がないもの

※対策済量に奈良県の対策量は含まれていない。平成30年3月時点での数値

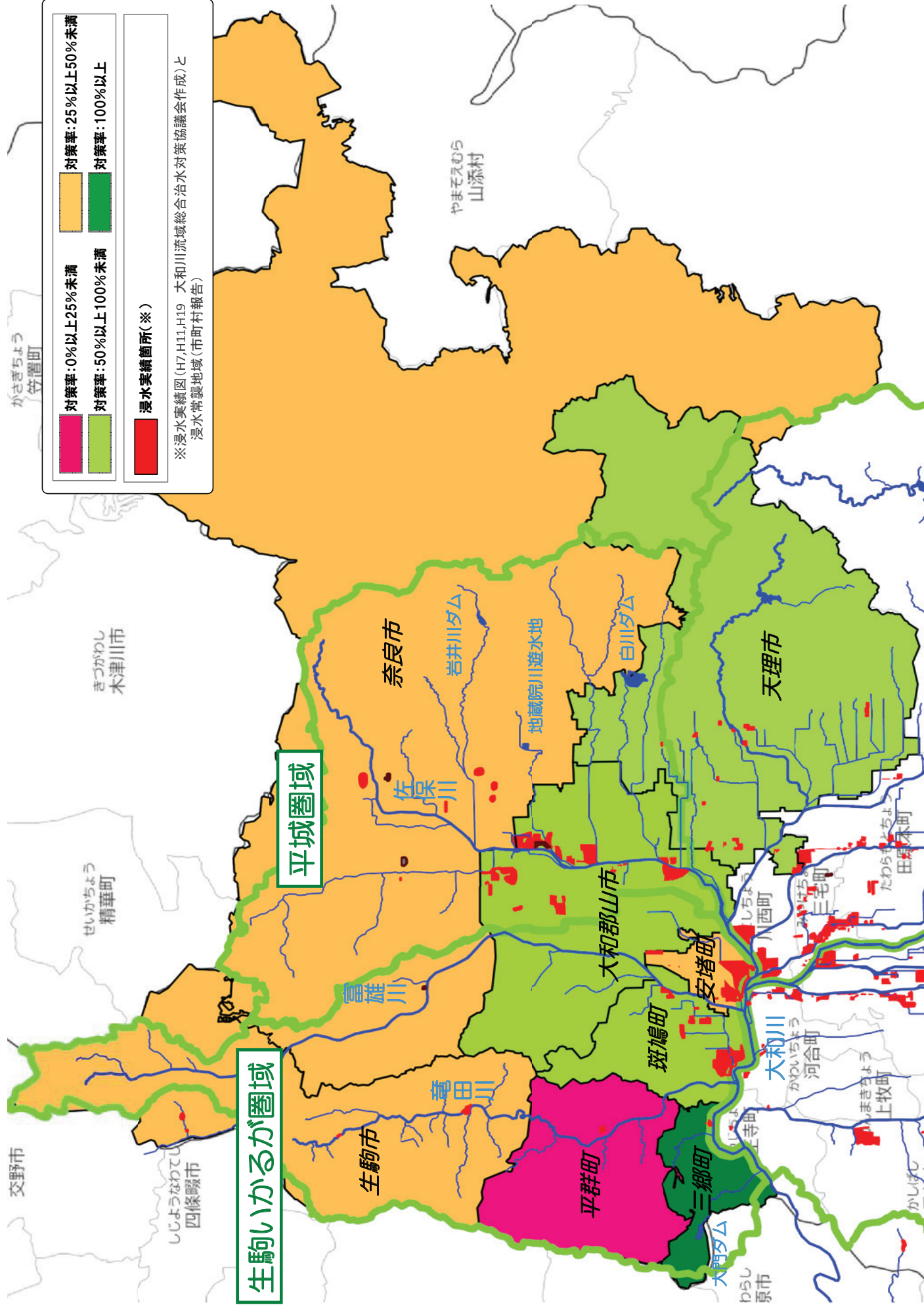
※市町村の進捗は、各圏域に流域を持つ市町村の値を示したもの

※①ため池+雨水貯留は、『ため池治水利用施設』と『雨水貯留浸透施設』の対策済量を合計した数値で、ため池+雨水貯留+水田は、これに水田貯留の貯留量を加算

②水田貯留の貯留量は、「実施面積(m²)×湛水深(cm)」で算出した値とする

※H30の見込み数値は、地元調整結果等により変動する。

【流域対策の進捗状況と浸水実績（①生駒いかるが圏域・②平城圏域）】

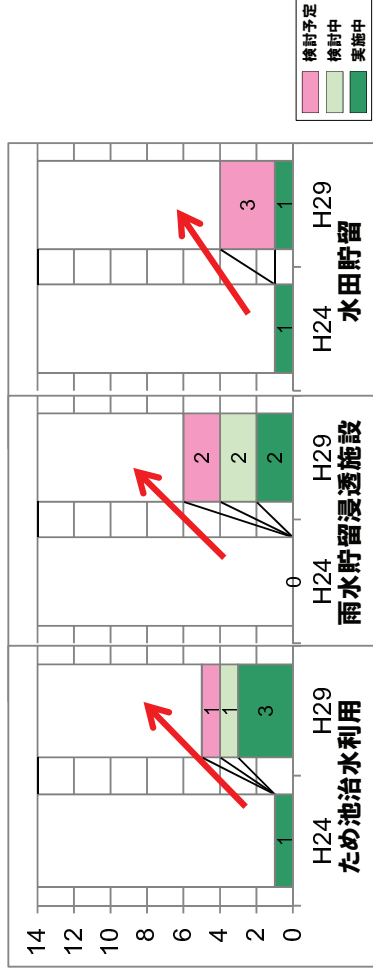


そが かつらぎ
③ 曽我葛城圏域

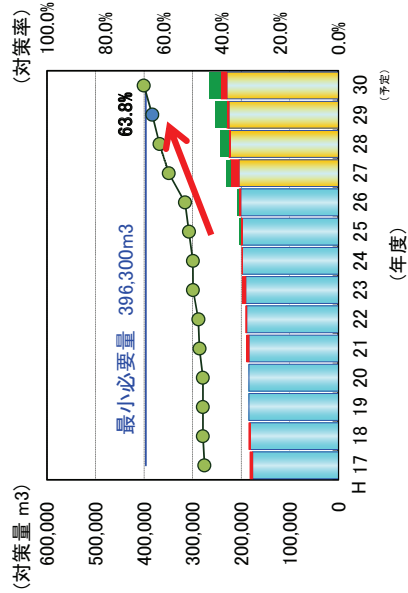
- ◆大和高田市や広陵町、河合町など中下流域を中心に内水被害が発生しており、上流域で流出抑制が必要
- ◆流域対策の進捗率のばらつきが大きい。
- ◆ため池治水利用では、御所市、香芝市、田原本町が対策に取り組んでいるほか、三宅町が検討中。
- ◆雨水貯留浸透施設では、大和高田市、田原本町が対策に取り組んでいるほか、葛城市、河合町が検討中。
- ◆水田貯留では、広陵町が対策に取り組んでいる。

【流域対策に取り組む市町村数の変化】

全14市町村のうち、目標達成は5市町



【流域対策の推移】



— 当該年度に実施した対策量 — 水田貯留の貯留量

※H30の見込み数値は、地元調整結果等により変動する。

【流域対策の進捗状況】

市町村名	最小必要量 (m3)	①ため池＋雨水貯留 (H30.3)		②ため池＋雨水貯留＋水田 (H30.3)		取組状況 (H30.3現在)		
		対策済量 (m3)	対策率 (%)	対策済量 (m3)	対策率 (%)	ため池 治水利用	雨水貯留 浸透施設	水田貯留
大和高田市	22,090	25,112	113.7	25,912	117.3	予定なし	実施中	予定なし
橿原市	46,970	50,094	106.7	54,294	115.6	予定なし	検討予定	予定なし
御所市	52,960	18,835	35.6	18,835	35.6	実施中	予定なし	予定なし
香芝市	58,010	31,623	54.5	31,623	54.5	実施中	予定なし	予定なし
葛城市	41,890	15,077	36.0	15,077	36.0	予定なし	検討中	予定なし
三宅町	3,270	270	8.3	270	8.3	検討中	検討予定	検討予定
田原本町	32,140	1,660	5.2	17,610	54.8	実施中	実施中	検討予定
高取町	19,980	2,186	10.9	2,186	10.9	予定なし	予定なし	予定なし
明日香村	16,440	15,398	93.7	15,398	93.7	予定なし	予定なし	予定なし
上牧町	22,950	7,477	32.6	7,477	32.6	検討予定	予定なし	予定なし
王寺町	22,950	24,639	107.4	24,639	107.4	予定なし	予定なし	予定なし
広陵町	34,300	5,260	15.3	8,090	23.6	予定なし	予定なし	実施中
河合町	20,850	25,610	122.8	25,610	122.8	予定なし	検討中	検討予定
大淀町	1,500	6,000	400.0	6,000	400.0	予定なし	予定なし	予定なし
圏域合計	396,300	229,241	57.8	253,021	63.8			

凡例

対策率:0%以上25%未満

対策率:25%以上50%未満

対策率:50%以上100%未満

対策率:100%以上

実施中

検討中

検討予定

予定なし

当面、検討の予定がないもの

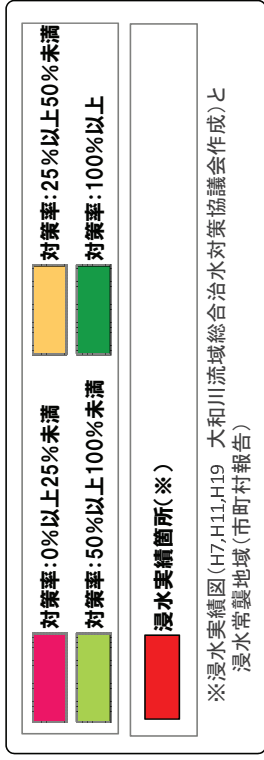
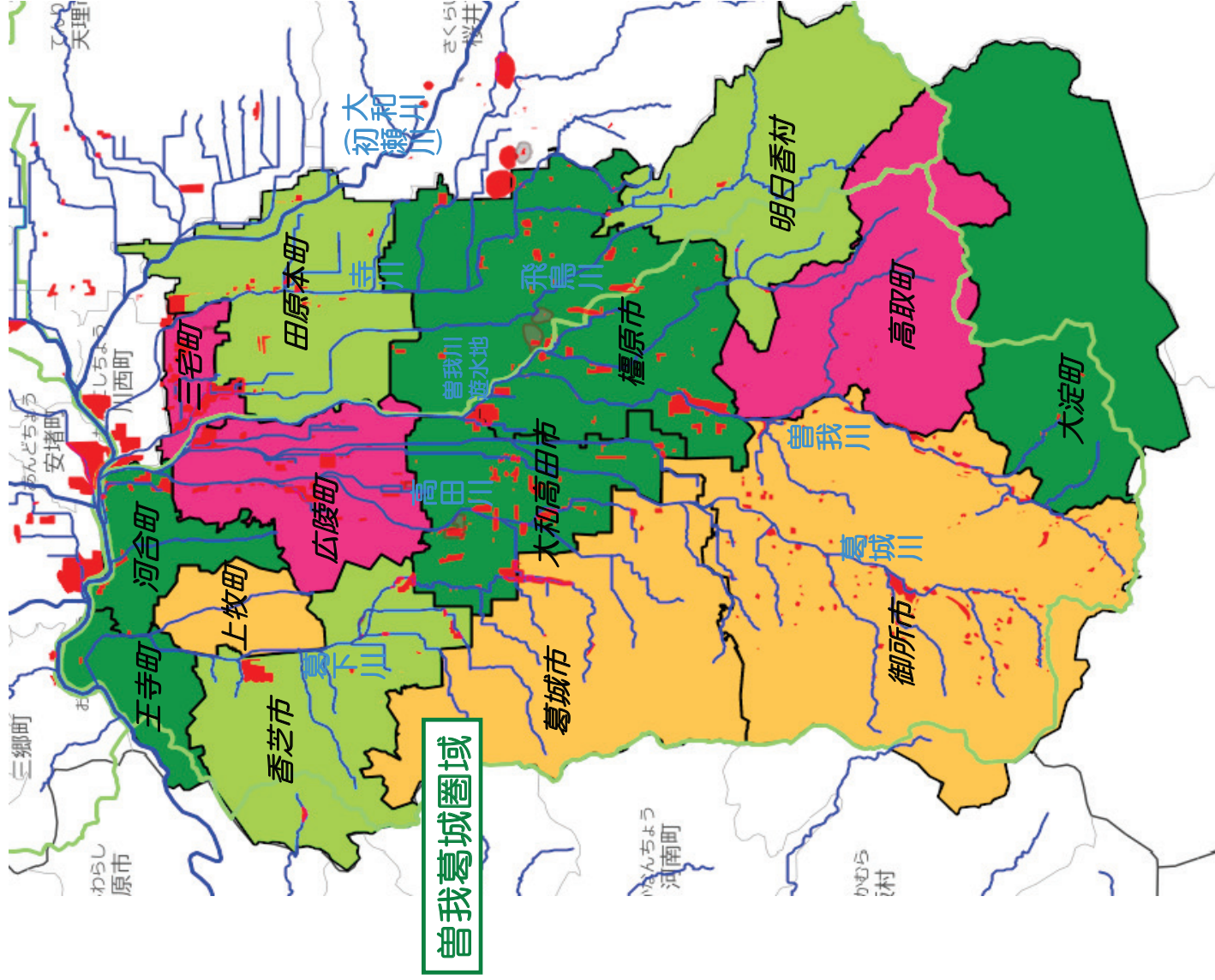
※対策済量に奈良県の対策量は含まれていない。平成30年3月時点の数値

※市町村の進捗は、各圏域に流域を持つ市町村の値を示したもの

※①ため池＋雨水貯留は、『ため池治水利用施設』と『雨水貯留浸透施設』の対策済量を合計した数値で、ため池＋雨水貯留＋水田は、これに水田貯留の貯留量を加算

②水田貯留の貯留量は、「実施面積(m²)×湛水深(cm)」で算出した値とする

【流域対策の進捗状況と浸水実績（③曽我葛城圏域）】

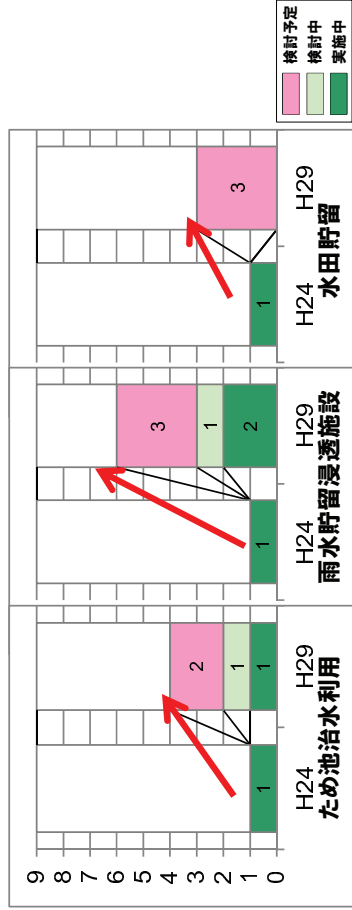


4 布留飛鳥圏域

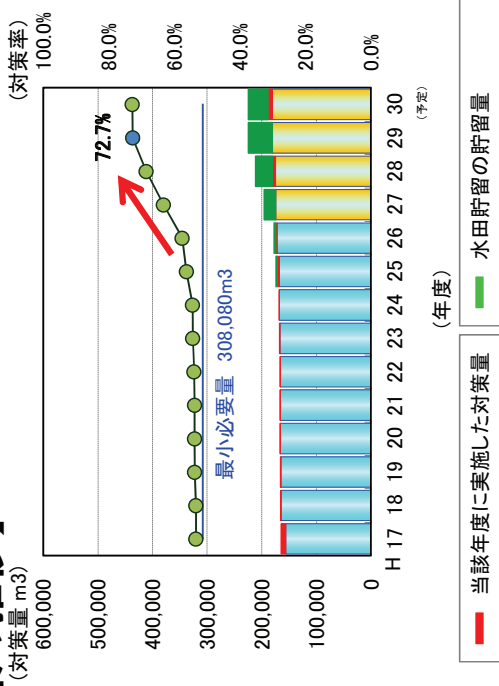
- ◆ 寺川や飛鳥川沿いの中下流域などで内水被害が発生しており、上流域で流出抑制が必要
- ◆ 流域対策の進捗率のばらつきが大きい。
- ◆ ため池治水利用では、田原本町が対策に取り組んでいるほか、三宅町が検討中。
- ◆ 雨水貯留浸透施設では、桜井市、田原本町が対策に取り組んでいるほか、大和郡山市が検討中。
- ◆ 水田貯留では、大和郡山市、三宅町、田原本町が検討を予定している。

【流域対策に取り組む市町村数の変化】

全9市町村(うち、目標達成は1市)



【流域対策の推移】



【流域対策の進捗状況】

市町村名	最小必要量 (m3)	①ため池+雨水貯留 (H30.3)		②ため池+雨水貯留+水田 (H30.3)		取組状況 (H30.3現在)		
		対策済量 (m3)	対策率 (%)	対策済量 (m3)	対策率 (%)	ため池 治水利用	雨水貯留 浸透施設	水田貯留
大和郡山市	77,110	55,525	72.0	74,586	96.7	検討予定	検討中	検討予定
天理市	69,220	41,952	60.6	41,952	60.6	予定なし	検討予定	予定なし
橿原市	46,970	50,094	106.7	54,294	115.6	予定なし	検討予定	予定なし
桜井市	35,440	11,744	33.1	16,444	46.4	予定なし	実施中	予定なし
川西市	7,510	1,379	18.4	1,379	18.4	検討予定	予定なし	予定なし
三宅町	3,270	270	8.3	270	8.3	検討予定	検討予定	検討予定
田原本町	32,140	1,660	5.2	17,610	54.8	実施中	実施中	検討予定
高取町	19,980	2,186	10.9	2,186	10.9	予定なし	予定なし	予定なし
明日香村	16,440	15,398	93.7	15,398	93.7	予定なし	予定なし	予定なし
圏域合計	308,080	180,208	58.5	224,119	72.7			

凡例

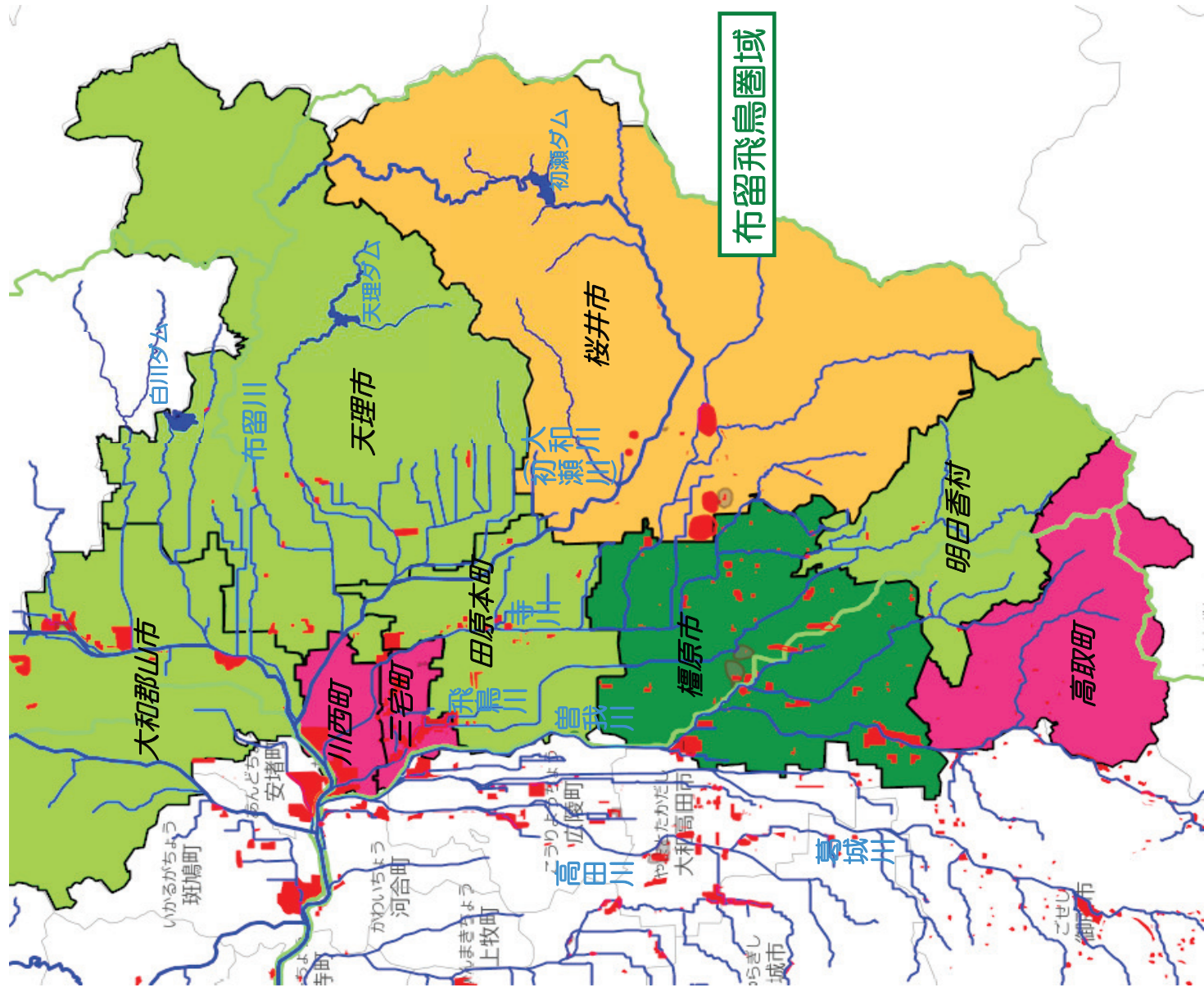
- 対策率:0%以上25%未満
- 対策率:25%以上50%未満
- 対策率:50%以上100%未満
- 対策率:100%以上

- 実施中
 - 検討中
 - 検討予定
 - 予定なし
- 工事中または設計中(関係者と概ね合意済み)
具体的な候補地が決まり、関係者と調整中または近々、調整を行う予定のもの
具体的な候補地は決まっていないが、今後、検討を行っていく予定のもの
当面、検討の予定がないもの

※対策済量に奈良県の対策量は含まれていない。平成30年3月時点での数値
※市町村の進捗は、各圏域に流域を持つ市町村の値を示したもの
※①ため池+雨水貯留は、『ため池治水利用施設』と『雨水貯留浸透施設』の対策済量を合計した数値で、ため池+雨水貯留+水田は、これに水田貯留の貯留量を加算
②水田貯留の貯留量は、「実施面積(m²)×湛水深(cm)」で算出した値とする

※H30の見込み数値は、地元調整結果等により変動する。

【流域対策の進捗状況と浸水実績（④布留飛鳥圏域）】



○流出抑制対策を効果的・効率的に推進するため、民間が所有する暫定調整池やため池等の既存ストックの改良を、新たに流域貯留浸透事業の交付対象に追加する。

背景

○昨年の一連の台風により、一級河川の支川の国管理区間や都道府県が管理する中小河川等で甚大な被害が発生。

○これらの中小河川等は、上下流バランスや財政制約等の観点から整備水準が必ずしも高くないことに加え、局所的な豪雨が増加していることもあり、現況流下能力を上回る洪水が発生しやすい状況。

○このような状況にある中小河川等の対策を効果的・効率的に推進するため、流域内の様々な洪水調節機能を最大限活用するなど既存ストックの有効活用を図ることが重要。

検討の方向性

○流域内の様々な流出抑制施設を有効活用することで、中小河川等の対策を効果的・効率的に推進

○民間が所有する流域内の既存ストックの改良を支援

拡充の概要

○流域貯留浸透事業（防災・安全交付金）の拡充

現在では地方公共団体等が公共施設として管理する暫定調整池やため池等が対象となっているが、民間が所有する施設も交付対象に追加する。



洪水吐切り欠きの設置により治水容量の確保を行った事例